

一人の女が身に太陽をまとい、月を足の下にし、頭には十二の星の冠をかぶっていた。
黙示録12章1節

発行所 カトリック長崎大司教区 広報委員会
発行人 中 田 輝 次
〒852-8113 長崎市上野町10-34
カトリックセンター内
TEL 095(843)3869 FAX 095(843)3417
郵便振替番号 01880-5-2699
カトリック長崎大司教区ホームページ
http://www.nagasaki.catholic.jp
印刷所 株式会社 藤 木 博 英 社
〒850-0852 長崎市万屋町5-13
TEL 095(821)2146 FAX 095(821)2148

よきおとずれ

CATHOLIC NAGASAKI MONTHLY
カトリック長崎大司教区報

10月・教皇さまの
意向のために祈りましょう

- ①一般の意向：少数派となっているキリスト者
- ②宣教の意向：より深い宣教意識
- ③日本教会の意向：災害被災者への支援

カトリック新聞 長崎教区報

ニュースの連携強化
08年「3月」を合体号で発行

6頁建て全国定期購読者へ配送

9月4日、カトリック新聞社と長崎教区広報委員会の間で、「合体号」(来年3月)に関して話し合った。実現すれば、長崎教区でより多くの信徒にカトリック新聞を手にとって読んでもらう好機となる。カトリック新聞との合体号は本誌「よきおとずれ」が初めてとなる。



カトリック新聞社との会議の様子

合体号に関する会議は、カトリック中央協議会(東京・江東区)からの提案で長崎教区広報委員会がカトリック新聞社を訪ねて行われた。参加者はカトリック新聞社部長長田紀行氏ほか2人、中央協議会から前田万葉神父、下宿英知神父、久志利津男神父、長崎教区からは中田輝次神父が出席した。発行の可能性を前提に、紙面内容、資金計画、合体号の効果などを話し合った。

1. 紙面内容
①2008年3月2日のカトリック新聞4頁に加え、「よきおとずれ」3月号、世界代表司教会議(以下「シノドス」)第12回通常総会が2008年10月5日から26日にバチカンで開催される。日本の司教協議会からは代表として高見三明大司教が参加する。テーマは「教会生活と宣教における神のこ

2. 資金計画
①合体号発行には部数増に伴う資金が必要になる。さらに検討を重ねる。

3. カトリック新聞社側の効果
①経営環境の厳しい中、教区からの資金協力の1

4. 長崎教区側の効果
①教区の動き(ニュース)が全国に紹介されるので教区信徒だけでなく、全国の信徒の励みになる。特に長崎の場合、列福式を控えているので、巡礼地としてのPR効果は大きく、旅行者などが長崎に目を向ける機会にもなる。

②教区の信徒全員に配布されるので、新聞の再認識の機会となる。

③教区の広報と新聞社との連携強化につながる。

第12回世界代表司教会議に向けて

とば。2005年10月第11回シノドスのテーマ「聖体―教会生活と宣教の源泉と頂点」と深く関連する「神のことば」が今取り上げられている。第12回シノドスの準備として、今年5月バチカン当局から全世界の教会

から回答が寄せられた。それらの回答を代表の高見大司教がまとめ、まとめたものを10月5日の臨時特別司教総会で検討し、日本の司教協議会の回答としてバチカンに送る。シノドス準備委員会は、全世界から寄せられる回

つもの形として、増収を図る。

②長崎教区の信徒全員に新聞が行き渡り、購読数増加の糸口になる。

③成功例を1つ作ることに、今後他教区での展開が見える。

合体号の発行は2008年3月。今後、紙面の構成、資金面で双方の理解を得ながら、教区広報委員会としても十分準備して計画実現と成功につなげたい。

司教間の緊密な関係を助長し、信仰および倫理の擁護と向上、教会規律の順守および強化のために助言をもつてローマ教皇を補佐する。また世界における教会の活動に関する諸問題を研究する。」(第342条)

「世界代表司教会議は、普遍教会の善益に直接関連する事柄を取り扱う総会として開催することができる。総会には通常総会と臨時総会の2種類がある。会議はまた、特定の地域もしくは複数の地域に直接に関連する問題を取り扱う特別会議として開催することができ(第345条)。

長崎大司教区主催

ながさき巡礼(長崎・外海・平戸・不動山・島原)
～列福記念 長崎教区ゆかりの福者44人の足跡を訪ねて～

巡礼は、日常の土地、家を離れ、旅をするという神の民・教会の本来の姿を体験する場であり、時間です。そして巡礼地を巡ることによって、神ご自身と出会う機会ともなります。それぞれの巡礼地を訪ねながら、その土地に育った殉教者の生涯を学び、現在そこに住む信者の信仰と文化も学ぶことができます。さらに自分が属する巡礼団の仲間ばかりでなく、他の巡礼者との出会いも得がたい体験となるでしょう。

有明の海	1627. 2. 21	パウロ内堀の息子たち	3人
雲仙地獄	1627. 2. 28	パウロ内堀作右衛門他	16人
	1627. 5. 17	ヨアキム峰助太夫他	10人
有馬川	1613. 10. 7	アドリアノ高橋主水他	8人
生月	1609. 11. 14	ガスパル西玄可他	3人
西坂	1633. 7. 28	ミカエル薬屋	1人
	1633. 7. 31	ニコラオ福永ケイアン	1人
	1633. 10. 21	ジュリアン中浦	1人
	1637. 11. 6	トマス金鍔次兵衛	1人

(年月日は殉教した日)

日時：平成19年11月23日(金)～25日(日) 2泊3日

11月23日 8:00 長崎カトリックセンター集合、出発
西坂殉教地―黒崎―出津―横瀬浦―田平―生月島(泊)
11月24日 平戸巡礼―不動山殉教地―島原(泊)
11月25日 雲仙―島原城跡―原城跡 →17:00 長崎着、解散
参加者：先着25人(最少催行人数15人)
参加費：35,000円(2泊分宿泊料、昼食3回、交通費、入館料他)

申込・問合せ先：長崎巡礼センター
(TEL) 095-842-2393
(FAX) 095-846-2822

※ FAXでお申込みの際は、氏名、性別、生年月日、住所、電話番号をご記入ください。

アジア巡礼所責任者会議 長崎で開催

10月15日～17日まで、アジアから18カ国、約100人の巡礼所責任者が長崎に集まり、カトリックセンターで「第3回アジア巡礼所責任者会議」が開かれる。主催は教皇庁難民・移住・移動者司牧評議会。今回のテーマは「巡礼地―それは希望の場所」である。初日はオリエンテーション、挨拶と歓迎の辞、報告と質疑応答、ミサ。2日目は講話と質疑応答、ミサ。最終日は分かち合い、最終報告書提出、市内巡礼、ミサとなっている。

会議はすべて英語で進められる。会議の実りとして、アジアの参加国に広がる巡礼地を、将来的に一つのコースとして結ぶなどの動きを始めるための連絡システムが提案される予定。

長崎県内の巡礼コースも今回188殉教者のうち44人の殉教地を巡るコースが提案されたり(左記の教区主催巡礼募集要項参照)充実してきている。加えて列福式を機会に九州における福者ゆかりの地を結ぶコースも注目されてくることになる。

ペトロ岐部と187殉教者の列福を控えて

日本のカトリック教会の皆様
本年6月1日、教皇庁列聖省は、教皇ベネディクト16世の認可を得て、「ペトロ岐部と187殉教者」の列福を承認しました。私たちの現在の関心事は、列福式の日程、場所、教皇特使の決定です。

列福式は、当該の新福者ゆかりの地で執り行われることが慣例になっています。また毎年の典礼における福者の記念は、その地域教会で行われます。しかし列福自体は、全世界の教会の慶事です。したがって式の主催者は教皇庁であり、式の日時や場所等の決定は教皇庁国務省が行います。

一部に列福式は本年(2007年)秋との見通しがありましたが、しかし、何ら決定されたものではありませんでした。日程や開催場所その他については、教皇庁国務省から決定の連絡があり次第、速やかに皆様にお知らせすることになっています。

列福の準備のため、昨年9月から皆様に募金をお願いして参

りました。本年8月末現在の実績は、当初の目標額3千万円を上回り、皆様の温かいご支援に心から感謝いたします。

この募金開始と軌を一にして、教会内外において「188殉教者」への関心がつとに高まり、列福式への参加者は、当初の見通しをはるかに上回る見通しです。そのため会場その他、式全体の計画の大幅な見直しを迫られることになりました。これに伴い、必要経費が増大することは必至の状況です。

そこで、当初の目標額は達成いたしましたが、さらに皆様のご協力をお願いしたいと思えます。殉教者の列福を機に、日本の教会が心をひとつにして福音宣教に邁進していくことができれば、皆様のご協力をお願いいたします。主において、祈りのうちに

2007年9月10日
日本205福者の記念日
日本カトリック司教協議会
会長 岡田武夫
同 列聖列福特別委員会
委員長 溝部 脩
高松教区司教

聖マリアの像を眺めていて今さらのように気付いたことがある。マリア像はほとんどが手を合せて祈っているか、あるいは幼子イエスを抱いているか、この3つである。さらに手を合せている像はただ単に手を合せているのではなく、ロザリオをさげて祈っている姿とほぼ決まっている▼手を合せている姿を十分表すが、ロザリオをさげている姿がやはりいちばんふさわしい。ペンを握っていたり、本を読んでいた、別の聖人のトレードマークである鍵や剣を持つている姿は想像すらできない。これは何かを意味するのではないだろうか▼手を合せて、祈っているマリア像は何かメッセージを発しているわけだが、こうですと決めたつけない方がいい。同じように自分でロザリオを手にして祈ってみる。そうすると、マリアが私たち一人ひとりにメッセージを届けてくれるのではないだろうか▼あれこれ議論するよりも、実際にその場に自分を置いてたほうが学ぶことは多い。巡礼もそうであろう。エルサレム巡礼に参加したとき十字架の道行きのコースをたどったが、イエスもこのような道をたどったのだろうかと思えてきた。エルドに巡礼すれば、それもまた現地でしか味わえない学びがあるだろう。ロザリオの月。救いの神秘を黙想しながら、実際にロザリオを唱えて導きを得よう。

天正造歌少年徒節が見た
ローマ・バチカンを訪ねて

旅行企画・実施 **NABC** 長崎空港ビルディング株式会社

2007年11月14日(水)
～11月20日(火)

旅行代金：**315,000円**
司祭・添乗員同行

申込・問合せ先：
☎095-833-2111

神言修道会日本宣教100周年 西町ファミリデー



記念ミサが行われた。
長崎純心大学片岡千鶴子(写真)学長による記念講演では、学長が幼少のころの「お隣さん」が当時の植



今年で8回目となる「西町ファミリデー」が9月8日、西町教会(川上進主任神父)で開催された。この日は、同教会を担当する神言修道会が日本で宣教活動を開始してちょうど100周年の日にあたり、これを記念して、教会前広場で例年開催している集いに加えて、記念講演および

渡辺和子修道女を迎え 75周年記念講演(諫早)



「いのち・愛・いのり」を演題に、ノートルダム清心学園理事長・渡辺和子修道女は、9月1日諫

早文化会館で諫早教会創立75周年の記念講演を行い、会場は約600人の聴衆で埋まった。講演を前に下川英利主任神父のあいさつ、お告げのマリア修道会修道女の典札聖歌が平本義和神父の指揮で披露された。



長と昇任し、外部からの風当たりが強く苦労したが、神のみことばに生き、耐えてきたと、人生を振り返って話した。

また、講演の中で「キリスト教では人間は神の似姿に創られていると教えています、他の動物

露の後、高見大司教司式による記念ミサが行われ、説教(写真)の中で大司教から祝辞が述べられた。夕方からは広場の集いが開催され、恒例の長崎市立緑が丘中学校吹奏楽部による演奏に始まり、歌、踊りなどが披露された。南山小学校・幼稚園、長崎南山学園、ルドヴィコ神学院関係者、地域の方々も加わり、1200人を超える参加者とともに楽しいひとときを過ごした。

生け花による典礼表現

9月9日(日)教区典礼委員会主催研究會「生け花による典礼表現」が平戸市の田平教会信徒会館において行われた。

研究會では講話の中で「生け花をする人も重要な典礼奉仕者としての役割を持つていく」と、「典礼磨や聖書朗読をテーマにして生けることがふさわしい」

ことなどを学んだ。参加者は実際に聖書を読み黙想しながら、準備された花材でそれぞれのイメージを具体的に表現していた。これまでは自分の当番の時に何気なく生けていたという参加者は、その中でみことばをどのように黙想し表現していくのかに苦労している様子だった。

9月15日から3日間、日本カトリック聴覚障害者の会全国大会が長崎で開催された。今回は、前回2004年の広島大会に続く8回目で、長崎での開催は1989年の第2回大会に続く2回目。



9月15日長崎文化放送(長崎市茂里町)で開かれた視覚障害者のための

九州青年キャンプ

「主よ、よつちみらんね」

―南宮崎教会

「主よ、よつちみらんね」宮崎弁で「主よ、(わたくしたちとともに)お泊りください」という意味。聖書から引用した言葉を



ちが持ち回りで準備するキャンプとなっており、今年も今回は大分教区、特に宮崎の青年たちが中心となっており、打ち解けた雰囲気の中、綿密に組まれたプログラムが進められ、2日目には大分・宮原良治司教司式のもと、初日から参加の鹿

児島・郡山健次郎司教と司祭団とともに、全員が、今回は大分教区、特に宮崎の青年たちが中心となっており、打ち解けた雰囲気の中、綿密に組まれたプログラムが進められ、2日目には大分・宮原良治司教司式のもと、初日から参加の鹿

長崎3地区の中高生 学びと交わり

8月18日(土)、青少年委員会の主催で、長崎地区の中高生を対象とした集いが、浦上教会信徒会館をメ



に考えた。昼食後に場所を移して、全員でボウリング大会を行った。若い世代の元気に満ち溢れる有意義で楽しい集いとなった。参加者はスタッフも含めて総勢20人。

マリア 山脇ツヤコさん(山脇 守師の実母)



8月29日午後2時8分、脳こうそくのため入院先の長崎小江原中央病院で死去、83歳。

子供6人のうち、三女が宮崎カリタス修道女会のシスター、次男が長崎

森下 正光さん(71)



希望したのは、両親たちが建てた教会を大切に維持したい、こんな気持ちから飛び込んだという。「ガイドとして私が一番大切にしているのは、分ける範囲内で誠意を持って話してあげる。そ

社(本社福岡市)の創刊130周年記念として同社の国際ホールで「九州よかとこ観光案内人」を顕彰する会があった。その席で森下さんは大賞に次ぐ「個人賞(1人)」を受賞、会場の拍手を浴びた。

「1日何本もロザリオを唱え、とくに神父、シスターのために」祈らば、祈らば「が口ぐせだった。また、ふくれ饅頭作りが上手で、鮑の浦教会のイベントで引き継がれている。

こでいうのではなく一般的な話ですが、信徒にとって大切な祈りの場・聖堂内でのマナーとか、今、

指定重要文化財の「青砂ヶ浦教会」「頭ヶ島教会」を抱え、ガイドの責任は重い。ふるさとガイドを

の歴史なども郷土史、教会の歴史など勉強は怠ることはできません」ガイドの依頼は6月と9月が最も多く、今年6月は6回(1回約5〜6時間)案内する。お客さんから焼失した江袋教会の再建費にと寄付金を頂いたという感動的な話も、この7月、西日本新聞

葬儀ミサは高見大司教の司式で、告別式は山脇師の司式で31日、鮑の浦教会で行われた。

2007年度
小共同体づくり入門講座
11月から開催

左記日程(全10回)の午後2時〜4時まで。
▽会場 カトリックセンター
▽11月11・18・25日、12月2・9・16日、
1月6・13・20・27日(いずれも日曜日)
詳細・小共同体推進室 室長 中村 満
TEL 095-842-4450

焼罪殉教祭

福者カミロ・コンスタンツ殉教祭は9月16日あいにく、台風11号の影響で田平教会で行われ

ながらも神を選んで生きたことに触れ、今でも正しい人が罰もなく殺害される世にあって、人生がこの世だけでないこと、自分よりも神を選んだキリストと殉教者が示した

永遠の平安の道を歩めるよう恵みを祈ろうと呼び掛けた。

「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」――今年、世界遺産暫定一覧表に登録されたことから西海国立公園「新上五島」の観光客は増えるものと予想されます。教会のど

